

第104号 ふれあいのまち つるかぶと

鶴甲小学校の絆 = 大月台・篠原台・水車新田・鶴甲・六甲台

発行所 鶴甲ふれあいのまちづくり協議会
〒657-0011(鶴甲小学校内)
神戸市灘区鶴甲2丁目10-1
TEL 078-822-8709

発行者 野田比奈 TEL 078-843-0884

編集者 広報部会 TEL 078-822-8709

印刷所 イバ紙器印刷工業所
TEL 078-231-5735
神戸市中央区琴ノ緒町1-2-229



「努力はたし算」

鶴甲小学校校長 山本 政直

「猛暑」「酷暑」という言葉が当たり前のように毎日聞かれます。そのような中、8月18日から第二学期がスタートしました。今まで誰も経験したことのない学校生活です。子供たちの健康は大丈夫なのか。登下校の安全は確保できるのか。運動場での遊びは？体育の授業は？心配や不安が募る中でスタートになりました。

教室ではマスクをつける、友達と一定の距離をとる、教室の換気を十分に行う、給食を食べるときは話をしないなど、一学期同様、新型コロナウイルス感染症予防対策もしながら「猛暑」「酷暑」の中では、熱中症要望対策も重要になります。運動場に暑さ指数計を設置し、毎日熱中症の危険度を計測しながら、体育の授業の可否や外遊びの可否を判断するようにしています。教室内は、換気をしながらエアコンを活用しています。また、登下校時は、直射日光を遮る帽子等を着用することし、友達と距離を取ること、マスクは外すよう指導しています。

そうした窮屈な環境や困難な状況をはねのけ、また私たちの心配や不安を吹き飛ばすように、子供たちは毎日元気に校門をくぐり、学習に取り組んでいます。

3B体操講座

日時：第4月曜日
1部：午前10時～11時45分
2部：午前11時～11時45分
参加費：500円

※コロナ対策のため2部制(各10名定員)で行います。
※初講習の方は補助具貸します。(ボール・ベル・ベルト)

編集後記

コロナ禍で、なかなか外出できない中、鶴甲地域の人気屋外スポーツは、新しく再生した「鶴甲公園」(通称北公園)でラジオ体操から始まり、夕方からは子供たちが沢山遊んでいます。夜も犬の散歩などで賑わっています。もう一か所が、市営プールも閉鎖中の猛暑の夏には欠かせない水場、「六甲川親水広場」(表紙写真)毎年8月は台風で被害を受けるのですが今年も台風も無く穏やかな水面を提供しています。地域の方々が綺麗に整備管理をしてくださっている場所、今年も週末にもなると例年に無く人が多かったです。ただ、鶴甲の人でない方々(鶴甲小学校区以外)も多く来られているようです。六甲ケール下駅近の駐車場が満杯になっています！ (宇都宮)

室内で大勢が集まる防犯研修会も実施できず、神戸地区全体の研修会や区民運動への参加もありませんでした。

通常なら灘防犯協会の総会で表彰される防犯功労賞は、本年川島聖三さんが受賞。総会が無く、表彰状と記念品が支部を通じて川島さんに届けられました。

コロナの収束は、見通せませんが、防犯では、状況を判断しながら出来る範囲の活動を続けていきます。

鶴甲のまちの安全安心のために、引き続きご協力をお願いします。

今、自治会の掲示板に、「ひようご防犯ネット」スマホ登録のお願い、が掲示されています。登録していただくと、地域の犯罪情報や防犯情報が兵庫県警よりメールで送られてきます。

地域の情報を知り、防犯に備えるため、多くの方に登録して下さいようお願いいたします。

コロナ対策の為にしばらく休業致します。

地域安全の絆 鶴甲つながりの手

要援護者と支援者のマッチングについて

飯井 教道

6月になって沈静化を見せた新型コロナウイルスは8ヶ月経った現在も終息の兆しが見えません。そんな中7、8月にかけて支援者の方々に大変なお願いを頂きました。衷心より感謝申し上げます。それはコロナのためなかなか実施できなかったマッチングの周知をお願いしたことです。令和元年度登録された要援護者(318人)に担当支援者が訪問し安否確認の方法などについて説明していただきました。あわせて、新規登録者には「黄色いタオル」を配布しました。このように3密を避けなければならぬ時期にほんとうにご苦労をお掛けしました。

要援護者を訪問していた結果22人の方々が対象外となっていました。昨年約10ヶ月経って、お亡くなりになった方、施設に入居された方、転居された方、など高齢者の刻々と変容の速さに驚かされま

す。「つながりの手」理念のひとつ「ゆるやかなつながり」

「ゆるやかな見守り」さえも許さない新型コロナウイルスの振る舞いに怒りを覚えつつも新しい生活様式を模索しなければなりません。3密であれ、マスクであれ、手洗いであれ、出来る限りを尽くして新型コロナウイルスに立ち向かうことが肝要です。

今回のコロナ禍に遭遇して思ったことは、有史以来人類が生き残ってきたのは群れをつくり互いに助け合い敵に対峙したからだと言われます。私たちがこの9カ月家に閉じこもり孤独に過ごした苦痛は人々の生活規範からほど遠いものでした。最善の注意を払って新しいコミュニケーション作りが必要と考えます。

※安否確認※

災害時、会長から支援要請が一斉メールで発令されたら担当の要援護者の安否を確認本部にメール報告事故あるときは他の支援者も駆けつけ対処する。

※黄色いタオル※

災害時、要援護者は無事であれば、黄色いタオルを外部のドアノブまたは柵などにつるしておく。支援者はこれを見て安全を確認、素早く次の要援護者宅へ向かうことが出来る。

コロナ禍中の防犯活動

灘防犯協会鶴甲支部

高野 紀子

3月から5月、新型コロナウイルス感染症防止のため外出自粛を求められ、灘防犯協会鶴甲支部の活動もすべて中止となりました。

年度始めの総会は、総会資料配布、電話での異議なしで終了しました。

6月より、夕方、屋外での定時パトロールは、マスク着用、密にならぬよう気を付けて実施しました。が、8月は、「危険な暑さ」のため中止としました。

夜間パトロールは、狭い車内に4人が乗車、3密となり、マスク着用でのアナウンス活動となるため、コロナ収束まで実施できません。

ゆうゆう喫茶

コロナ対策の為にしばらく休業致します。

り組んでいます。まさに、鶴甲小学校の校歌の中の「われらに不屈の力あり」という歌詞通りの頑張りで、

そのような中、計画委員会の子供たちが中心になって「努力はたし算キャンペーン」という企画をしてくれました。これは、努力をすれば、それがたし算のようにどんどん増えていき、小さな努力も積み重なれば大きな成果となって表れるという考えにもとづいています。子供たちの努力の一部を紹介いたします。

「早寝早起きをして学校を休まないようにした。」「おしゃべりを我慢して勉強に集中できるようにした。」「計算漢字の学習を頑張った。」「字をきれいに書くように心がけた。」「本読みを頑張った。」「リコーダーの練習を頑張った。」「すみずみまできれいに掃除をした。」「たくさん発表できるように頑張った。」「しっかりと声であいさつができるようになった。」「これら、一人ひとりの努力は、小さな面用紙に書かれ、学級ごとの大きなピラミッドとなって積み上げられ、本館一階廊下に掲示されました。

今までは違う学校生活を送りながら、「不屈の力」で前へ進もうとしている鶴甲の子供たち。一つ一つの努力が、これから大きな成果となって表れてくると信じています。

かめのこクラブスタッフ①

我が家は3月中旬から夫が在宅ワークになりました。家が広くないので、リビングで仕事をするしかなく、どうしても子供達が仕事の邪魔をしてしまうのと、家の中だけで過ごすのも大変なので、団地の公園や近くの穴場の公園などに連れて行って遊ばせていました。世間では、外で遊んでいると注意されたという事を聞いたりするなか、私達はそういう事は一度もありません。鶴甲地域の皆さまに感謝しています。

かめのこクラブスタッフ②

目に見えない怖さが故に、漠然とした不安がもやもやとあります。ただ必要以上に恐れることよりも、正しい知識と予防法を知って、できる範囲で今まで通りの生活をするの方が健康的なのかな、と思い始めました。小さな子がいるので、やりたいことや行きたい場所にどこへでも気軽に、とはまだまだできませんが、大きな公園を探したり、家族でおうちタイムを過ごしたりと、今だからこそ目を向けやすい遊びや出来事を楽しめたらと思います。真冬になって外に出にくくなる前に、できるだけそういった楽しみを見つけたいな、とも思っています。

学校連携部会 波多野勝博

「いま私たちができること」
令和2年度は、約3カ月の学校休業を経て新学期がスタートしました。学校が再開した6月から、子どもたちの安全に関連することを優先して、PTA活動も再開しました。閑散としていた校舎や公園にも、子どもたちの声が戻り、これまでと同じような学校生活とはいきませんが、新しい生活様式にも少しずつ慣れてきたように思います。私たちがこれまでに経験したことのない状況下、行事やさまざまなことが制限される日々戸惑い、歯がゆさを感じています。このような中ですが、子どもたちは地域の皆さまの温かい見守りにより、元気に鶴甲の地で過ごすことができているようです。まだまだはっきりとした先行きはみえませんが、できないことよりも「今できること」を考えて、PTAは子どもたちの未来に繋がる活動を進めていきます。今後とも地域の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍の日常の様子を聞いてみた!

N・S 「コロナ禍の中で思うこと」

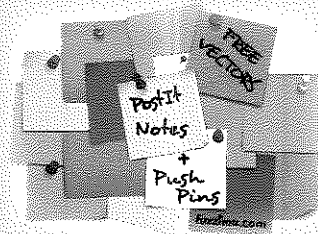
令和2年の新しい年を迎えた時にはまだ考えられなかったマスク着用、うがい、手洗い、手指の消毒などなど、今ではすっかり生活の中に定着してきました。この間、大事な人や職を失った方々の事を思うと心が痛みます。そして、感染拡大の中でも私達の生活を変わず支援続けている業種の方々や医療従事者に感謝する日々です。当初、店頭からマスクが消え、果てはトイレトーパーや除菌剤、乾麺なども購入できない日々が続き、仕事に出るのも不安がっぱいで、先が見えない日々絶望すら感じていました。でも人間ってたくましいですね。マスクがなければ作る。外食できなければおうちごはんを楽しむ、仕事や勉強、会食などオンラインを活用する... 災害が起きた時もそうですが、人間は困難な状況になると色々な知恵を生み出します。これからは新型コロナとはずっとお付き合いをする事になるでしょう。今は、人間がさらに進化をするために試練なのだなど感じます。そして、この試練を乗り越えるためには全て人間ひとりひとりが人任せではなく、努力をしなければならないのです。

かめのこクラブスタッフ③

オンラインという初の試みで開催のかめのこクラブ。人が集まるのか、という不安もありましたが、はじめましての方から顔見知りの方までたくさんの方が参加してくださり嬉しかったです。なにより、自粛期間中でお友達のお顔を見てお話しすることができなかったのが、みんなの顔を見られてホッとしました。お友達に教えてもらいながら始めたzoomですが、今ではzoom飲み会をやるまでになりました。コロナ禍の中でも新しいことを知ることが出来たのもよかったな、と感じています。

かめのこクラブスタッフ⑤

コロナで友達との予定も全くなくなってしまい、出かけるのが大好きな私は途方に暮れていました。でも家でも楽しめることって意外とあるなあと気づかされた期間にもなりました。1番楽しかったのは1歳の娘とのクッキングです!指先を上手に使えるようになってきて、混ぜたりちぎったり、一緒にできることが増えて娘も嬉しそうでした。またかめのこオンラインでも、皆さんがお家でしていることや散歩コースのバリエーションなど聞いて良かったし、何より家族以外と会話することがこんなにもリフレッシュになるんだな、と実感しました。しばらくはまだ感染対策を工夫しながらのかめのこクラブになりそうですが、早くたくさんの人と触れ合えるようになると嬉しいです。



with コロナ
コロナ禍の地域Postit

名和 仁美

登校時の必需品にマスクが加わって3か月。行事は例年とは違うところもありますが、子ども達にとって学校で過ごす事が楽しいのは変わらないようです。大切なものはかわらないですね!

植田 さやか

新しい生活様式になり、普通に過ごせる事の有難さを感じています。慌ただしい毎日ですが、今を大切に、感謝して過ごしていけたら良いなあと思います。

小5 西崎 心優

コロナですずっとマスクをしていたら、マスクをしたままでもたくさん走り回れるようになりました。「持久力がついたのかも。長距離ランナーになれるんじゃない?」とお父さんに言われて少しうれしかったです。

小4 高原 望未

コロナで3月から休校になりました。休校になってきそく正しい生活をするために、お姉ちゃんと時間割表を作ってすごしました。ベランダにテーブルを出して勉強したり、お昼ごはんも食べたりして楽しくすごす事も出来ました。でも毎日マスクをつけたり、みつにならないようにすごす事はとても大変です。一日も早く元の生活にもどりますように。

グリア 和美

まずは今ある現実を受け止める。そしてウイルスをもらわない、うつさないを個々気を付ける。誰でも感染するものなので陽性者を非難しない。そして一番思うことは、発言をポジティブにすること。あれもできない、これもダメとばかり言っていると落ちこんで、免疫機能も悪い方向に行ってしまうので、そこはあえて反対のことを言う。そして意識して口角上げて笑う。笑う門には福来るをモットーに、コロナ禍を生き抜いていこうと、家族で確認しあっています。

山田 千恵子

3月の会が中止になって以来、今日(9月17日)半年ぶりに編み物会が少ない人数ながら開催され、私も参加させていただきました。適度な距離を保って、マスクや感染対策をすれば編み物の会だってできるんだ!「久しぶりです!」と弾んだ声。マスクの下はもちろん笑顔です。人は人の中で生きるもの。どうにか工夫してでも「会いたい」欲求を満たしていきたいと自分の中で再確認することとなる1日でした。

かめのこクラブスタッフ④

コロナ前までは児童館に週3日以上は通っていて、先輩ママや先生方に子育てのことを聞いたりしていましたが、自粛中はそれができず不安になったりしました。さらに1日中子供と2人きりでイライラしてしまうことが増えて、あとから落ち込むという悪循環にもなっていました。Zoomを使ったオンラインのかめのこクラブでママさん達と悩みを共有したり雑談をしたりできたのはとても良かったです。顔を見て話すって大事なことなんだなあ、と改めて思いました。

高1 前谷 優花

3月からの緊急事態宣言で学校に行けない日々が続く中、卒業・入学という節目があつという間に過ぎました。日常生活のありがたさや友達に会えることの嬉しさを改めて感じ、まだまだ普通の生活ではありませんが、毎日楽しい日々を友達と送れています。